新型コロナウイルス感染症が収束するまでの

暫定的な試合・審判法適用前後の比較研究

- 剣道における打突の好機に着目して -

栄花 将輝 (筑波大学)

1. 目的

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、全日本 剣道連盟は「新型コロナウイルス感染症が収束す るまでの暫定的な試合・審判法(以下、暫定的な 試合・審判法)」を制定した。本研究では、暫定的 な試合・審判法の適用が剣道における打突の好機 や技の種類の発現にどのような影響を与えたのか を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

- 1)対象 全日本選抜剣道八段優勝大会、全日本 剣道選手権大会、関東学生剣道選手権大会、全国 高等学校総合体育大会剣道競技の4大会それぞれ 暫定的な試合・審判法適用以前の2018、19年大 会及び、適用後の2021年大会の男子個人準々決 勝以降の試合とした。
- 2) 調査方法 映像資料を再生し調査した。分析 項目は発現打突と有効打突それぞれの技の種類、 打突の好機とした。
- 3)分析方法 統計処理は、カイ二乗検定を行い、 有意水準を 5%未満とした。

3. 結果と考察

1)全日本選抜剣道八段優勝大会

適用後における発現打突の技の種類ですり上げ 技が有意に増加し、打突の好機で崩れたところが 有意に減少した。これらの結果から選手は打突す る際のリスクを避けて試合をしている可能性があ る。また、構えた状態での攻防が増加し、攻め崩 しが困難になったことが考えられる。

2) 全日本劍道選手権大会

適用後における発現打突の技の種類で連続技が 有意に増加し、打突の好機では受けとめたところ が有意に増加し、ひいたところが有意に減少した。 本大会では、連続技で攻め崩しを行おうとし、受けとめたところはそれに従って増加したと考えられる。また、鍔ぜり合いの制限が強化され、以前まで狙うことが可能であったひいたところの好機が減少したと考えられる。

3) 関東学生剣道選手権大会

適用後における発現打突の打突の好機で起こりの好機が有意に増加し、崩れたところが有意に減少した。この結果から、今回の適用により防御姿勢での相手への接近が制限され、以前までの防御主体の試合展開が改善傾向にあると考えられる。

4) 全国高等学校総合体育大会剣道競技

適用後における発現打突の技の種類で一本打ち が有意に増加し、引き技が有意に減少した。この 結果から本大会は今回の適用の影響が顕著に表れ、 試合内容が改善したことが考えられる。

4. 結論

今回の適用によって打突の好機では、崩れたところの減少が多くみられ、技の種類では連続技や一本打ちなどの攻撃的な技の増加が多くみられた。これらの結果から今回の適用が防御主体の試合展開から正々堂々とした試合展開への変化に影響を与えていると考えられる。

5. 主な参考文献

1)池田孝博・秋山大輔・岩本貴光・竹中健太郎・ 前坂茂樹・下川美佳・本多壮太郎, コロナ禍にお いて策定された暫定的な剣道試合・審判法は大学 生レベルの試合にどう影響したか?,武道学研究, 54(1):75-86, 2021.